

令和3年（2021年）12月

お世話になっている皆様へ

クリスマスと年末年始を迎えるに際して、平素からのご協力に対する感謝の気持ちを込めて、在シドニー日本国総領事館を代表してご挨拶させていただきます。

昨年に続き、本年も新型コロナウイルスが世界中に大きな影響を与えた年でした。東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催は、コロナに打ち勝つ世界の団結の象徴となる歴史的な大会となりました。シドニー大都市圏では、6月下旬から3ヶ月以上にわたり、ロックダウンが発令され、年末もオミクロン変異株の感染者が発生しています。当館は、在豪各公館と連携しながら、最新情報の提供や出入国の支援をはじめ全力で取り組んでまいりました。

こうした逆境にもかかわらず、日豪両国は交流を継続的に深めてきました。ハイレベルでは、6月及び9月に日豪首脳会談、続いて岸田総理就任直後の11月に、英グラスゴーで日豪首脳会談が行われました。また、9月に日米豪印首脳会合が対面で開催され、「自由で開かれたインド太平洋」の実現を含め幅広い分野での協力が進展しました。

ビジネス面では、コロナ規制を契機に普及したオンライン・ツールも活用しながら、着実に協力が進みました。当館はニューサウスウェールズ（NSW）州政府や北部準州（NT）政府、ジェットロなど日本政府機関、豪日経済委員会（AJBCC）ほかと連携しつつ、天然ガス・水素・重要鉱物、廃棄物、西シドニー開発等に関するウェビナーが開催され、多数の日本企業が参加しました。

文化面でも、オンライン・ツールを生かした活動が広がっています。その一つは、ビジネスと文化交流を結び付け、相乗効果を生むための新たな官民連携イニシアティブ「Japanaroo」です。ロックダウン下の8月から10月にかけて、多数の関連行事がオンライン開催され、更に12月には対面行事が開催されています。東京五輪に先立ち実施された豪州オリンピック委員会（AOC）主催の日豪学校間交流事業「ともだちコネクト」では、日豪合わせ約600クラスの生徒が、オンライン交流を行いました。

私は、担当しているNSW州とNTとの関係強化に向けて、本年もシドニー大都市圏のみならずダーウィン、カウラ、オレンジ、バサースト、リズモア等を訪問する機会に恵まれました。隔週発行の総領事通信（当館ウェブサイト連載）を通じて活動報告を行っておりますので、よろしければご覧ください。来年はNSW州内の7つの都市が、日本の自治体との姉妹都市協定締結を記念する周年を迎えます。日豪友好の絆を一層深いものとするためにも、各都市を訪問できる機会を心待ちにしています。

来年は、2月にダーウィン空爆80年、6月にシドニー湾攻撃80年を迎えます。この機会に、戦争の惨禍に思いを致し、日豪間の和解を改めて確認するとともに、未来に向けての協力関係を一層推進する決意を新たにしたいと思います。私も引き続き、日豪の友好の歴史を築いてきた多くの方々、そして未来を担う方々とともに、友好関係の更なる強化に向けて尽力する所存です。ご支援とご協力をいただければ幸いです。

在シドニー日本国総領事
紀谷 昌彦



@CGJSYD

| www.sydney.au.emb-japan.go.jp



| @CGJSydney